NEWS LETTER

小村寿太郎侯東京奉賛会　広報誌

VOL.12

2022
春季号
令和４年１月刊行

Contents

・会長挨拶
・「奉賛会との出会い」　幹事　林　恵子
・「私の尊敬する小村さん」　監事　石﨑　國雄
・新刊紹介
・お知らせ

ごあいさつ ＜新年のご挨拶に代えて＞

小村寿太郎侯東京奉賛会
会長　下笠　直樹

小村寿太郎について、県北では馴染みが薄いので是非紹介を、と「美郷文芸の会」から寄稿の依頼を受けましたので、拙文ですが、お届け致します。

小村寿太郎は、江戸末期の 1855（安政２）年、日向国飫肥（おび）藩に下級武士の長男として生を享けました。ペリー来航の２年後に当たります。そして、安政５年、日米修好通商条約が締結されるわけですが、このあたりから生まれながらにして外交との宿命的な縁があったのかな？と感じます。病弱気味で多忙な母親・梅に代わって幼少の寿太郎を厳しくも優しく育てたのは祖母の熊でした。朝起きると必ず本を読ませ、６ 歳になって藩校・振徳堂で学ぶことになると、寿太郎の手を引いて開門前に送り届けました。剣術の稽古に励み、素行も良く、学業成績は抜群で、兄と慕う小倉處平に教えを受け、その才能を高く評価されました。

後に、文部省の小倉処平は、各藩から有為な青少年を推薦させ、南校（東大の前身）に推挙する貢進制度により、愛弟子の小村を藩に推挙させました。15 歳で大学南校に入学し、優秀な成績を収めて、鳩山和夫、杉浦重剛、高平小五郎らの級友にも恵まれました。

1875（明治８）年、第１回文部省留学生としてハーバード大学へ入学し、学生たちからは敬意をもって接せられ、卒業後数年間、ニューヨークの法律事務所に勤めました。1880（明治 13）年に帰国しますが、この間、師の小倉處平は、西南の役で飫肥隊を率いて薩軍に参戦し、和田越えの戦い（延岡市）で負傷して 32 歳で自刃し、壮絶な最期を遂げています。時を経て小村が帰郷した際、恩師小倉處平の墓前で号泣したと伝えられています。司法省に入省して 1881 年、名門朝比奈家の町子と結婚し、長男欣一、長女文子、次男捷治が生まれましたが、父寛の飫肥藩での膨大な借金を寿太郎が肩代わりに背負うこととなり、酷い貧乏生活を送ることになりました。これに救いの手を伸べてくれたのは嘗ての学友杉浦重剛達でした。1884（明治 17）年外務省に転じ、公信局、翻訳局に勤務しますが、ここではあまり悦が上がらなかったところで、1893（明治 26）年、駐清臨時代理公使に抜擢したのは、切れ者「剃刀」の異名を持つ外相陸奥宗光でした。ここから外交官としての輝かしい道が開けて行きます。1894 年、日清戦争が勃発して、政務局長に就任し、その翌年、駐朝公使に任命され、1896 年には官僚として省トップの外務次官に上り詰めました。その後、駐米公使、駐露公使兼駐スウェーデン公使、駐清公使を歴任して、1901（明治 34）年第一次桂太郎内閣の外相に就任し、翌年、日英同盟の成立に漕ぎ着けました。これが日露戦争の後ろ盾となります。その頃、ロシアは南進政策を進め、1904（明治 37）年日露戦争が勃発し、日本は日本海海戦等で勝利しますが、彼我に国力の差は歴然としており、セオドア･ルーズベルト米大統領に講和斡旋を依頼して、1905 年８月 10 日、米国東海岸のニューハンプシャー州ポーツマス市において講和条約の交渉が始まりました。日本の全権委員は小村寿太郎と高平小五郎駐米公使で、ロシアは元蔵相ウィッテと元駐日公使で駐米公使のローゼンでした。戦勝国として日本は、韓国支配権の確立、遼東半島と満州の鉄道を獲得しましたが、最も難航したのは、賠償金の支払いと樺太割譲の条項でした。84,000 人の戦死者、17 億円以上の戦費がかかった一大戦争でしたが、連戦連勝に国中が湧き上がり、マスコミも煽り記事を連載してたので交渉の成果に多大の期待が寄せられました。

次頁へつづく ▸▸▸

◀◀◀前頁より

一方、ロシア側では皇帝ニコライ２世が「一握りの地も１ルーブルの金も与えてはならぬ。」と厳命を下しており、小村、ウィッテ共に本国からの指令に板挟みとなってなかなか妥協点を見い出せず、戦争継続か和平か二者択一を迫られた交渉は決裂必至となって小村はホテルに戻り、帰り支度までしました。土壇場でロシア側から国内事情もあって、ルーズベルトに譲歩の情報が入り、急転直下南樺太の割譲が提案され、賠償金は取れなかったものの、日本もこれを受け入れることとなって、９月５日ポーツマス平和条約が締結されました。

この日を記念してポーツマス市では午後３時 47 分から一斉にベルリンギングが実施され、さらにはニューハンプシャー州にまで広がっています。この事についてはある思いがあります。国際的に重要な出来事には違いないのですが、開催地に選ばれたという事象だけでもこれを誇りとしてベルリンギングが制定されたのに比較して、人材を輩出していながら地元では、最近、私立日南学園でベルリンギングが催されているのみで、日南市でも宮崎県でも何ら記念行事が企画されていないことを極めて残念に思う次第であります。

さて、本題に戻ります。同年９月 27 日にニューヨークを出発し、10 月 16 日に帰国しますが、その船中で、交渉に苦労して得た南満州鉄道の経営権に関する桂・ハリマン仮協定の締結を耳にしました。明治天皇の「小村の意見を聞け。」とのお言葉に、本協定とせず、仮協定となった経緯がありました。小村はこれに反対して、桂や元老の説得に回り、23 日に破棄させました。
12 月にはポーツマス条約をフォローアップする北京条約に調印し、桂内閣の総辞職により、１月７日に外相を退きました。
ここでまた、本筋から離れますが、宮崎県に関係することなのでお許し頂きたいと存じます。このようにしてポーツマスと北京から大任を果たして帰国したばかりの小村を慰労しようと１９０６（明治 39）年１月 28 日、上野精養軒において歓迎会を開いたのが「在京県人会」でした。このことから現在の「在京宮崎県人会」は、前年の１９０５（明治 38）年に発足したものと推測されています。ポーツマス条約に反対するマスコミ、学者等は国力の限界もわきまえず、ポピュリズムを煽り、日比谷焼打事件等が惹き起こされた中でも一言の言い訳もしなかった小村でしたが、郷里の人々の心の籠った温かさに触れた喜びは、如何ばかりであったろうかと想像するに難くありません。同年１月９日枢密顧問官に就任し、６月６日駐英大使に任命され、１９０８（明治 41）年第二次桂太郎内閣で２度目の外務大臣に就任しました。英国を離れて帰国する前にわざわざロシアの首都ペテルスブルグに赴き、ウィッテの自宅を訪ねました。彼は帰国後、首相に就任しましたが、僅か半年で解任され、不遇を託っていたところで、小村を歓迎しました。しばしの間、お互いに祖国を背負って丁々発止とやり合ったポーツマスを懐かしんだ後、小村が立ち去るのをウィッテは長い間見送っていました。これぞラグビーでいうところの、外交フィールドにおけるまさにノーサイドではないでしょうか。

ポーツマス以降体調を崩していた小村は、外相就任後も肋膜炎を患うなど思わしくない身体に鞭打って、韓国併合条約調印、新日米通商航海条約締結、新日英通商航海条約締結等に心血を注ぎました。1911（明治 44）年７月第三次日英同盟を成立させ、８月 30 日に外相を辞任し、そして 11 月 26 日、最後まで私利私欲に無縁で滅私奉公の生涯を貫き通し、享年 56 歳で一生を閉じました。終焉の地葉山には飫肥石の碑が遥か先の故郷を見つめて静かに建っています。

Column

奉賛会との出会い

小村寿太郎侯東京奉賛会
幹事　林　恵子

コロナ禍の中、2022 年となりましたが、今年も宜しくお願いします。

個人的なお話しになりますが、学生時代の私は、歴史を学ぶことに意味が無いと思っており、学科としても嫌いでした。大昔に「誰が何年に何をどうした」なんて事を覚え研究などして、いったい何になるのかと思っておりました。ほんとに若気の至りです。その後も興味の無いまま歳を重ね、歴史的知識の乏しい中年になりました。ですが、50 才を過ぎた頃から、戦争を振り返る番組等をきっかけに少しずつ歴史が気になり始め、歴史ドラマやドキュメンタリー TV などの影響もあって、興味を持つようになりました。

そんな時期に奉賛会主催の講演会に誘われ参加し、とても感動しました。何度か参加するうち、皆さんの豊富な知識にも感動でした。それが入会につながり、自分にとっては良いタイミングでの会との出会いが、とてもラッキーだったと思います。当初は寿太郎侯の事も、名前は聞いた覚えが、程度で、入会も心苦しいものが有りました。今は、多くの人達に小村寿太郎の仕事・功績を正しく知って欲しいという思いです。

まだ未熟な自分ですが、１年くらい前に、たまたま雑誌で「逆説の日本史」の題名で、実は日露講和は、日本の大勝利という記事を見つけて、嬉しくなりました。

もっとこういう報道が増えるといいのですが…。

私の尊敬する小村さん

小村寿太郎侯東京奉賛会
監事　石﨑　國雄

1.「誠」の外交官

小村さんは、鎖国が続いた江戸時代が終わりを告げる少し前の、1855 年に生まれています。その当時の幕末では、すでに西欧列強諸国 5 か国に砲艦外交により開国を迫られ、”不平等条約”の締結を要求されました。東アジア諸国が、近代帝国主義の洗礼を受けている時代でした。国家として混沌としたなかで如何にあるべきか、如何に進むべきかが問われている環境で、小村は勉学に励み、現在の東大からアメリカのハーバード大学に進み、近代の教育を学びました。外交官として臨まれた方針は、一貫して「誠」の一字に尽くされます。嘘を吐かない正直な姿勢で何事にも臨むという方針を徹底され、様々な外交の難局を乗り越え、国難に対処されました。110 年以上も前に、日本を真の独立国家として世界に認めさせた魂の外交官でもあります。

2．帝国主義とロシアの南下政策

産業革命と技術の発展は、19 世紀以降の新たな帝国主義を生じさせました。領土の拡張を図るとともに不平等条約を締結、力による自国に有利な制度を押し付けてきました。東アジアもアジアにおける最後の植民地としてターゲットになり、幕末の江戸幕府も例外ではありませんでした。そのような有無を言わせぬ西欧・ロシア等の列強時代を背景としています。小村は、アメリカ留学により、近代的な産業国家としての現状を眼のあたりにしました。先進国としての力も、近代的技術も、文化･生活の水準等も含め、全てを感じて帰国します。米国から帰国したときは 1880 年（明治 13 年）11 月、小村･若干 25 歳、当初は司法省に入省しています。そのようななかで明治政府は、清国、朝鮮との関係、ロシアの南下政策による領土の拡張が、外交上の喫緊の問題として、その解決を迫られつつありました。

3．外交の方針

小村外交の基本は、上記のとおり「誠」の外交一筋です。小村は、版籍奉還後、自分を貢進生として送り出してくれた領主に対する感謝の念とともに、、、明治維新を体験した後には、「世の中の政治変化に伴って私の精神も完全に切り替わった。まだ領主への忠誠心は持ち続けていたが、それよりも愛国心の方が強かったので、領主がその地位を辞した時は残念というよりむしろ良かった。」と述べています。、、小村寿太郎語録（ウイキペデイアより。参照）小村は、1869 年（明治 2 年）に郷里の「振徳堂」を卒業し、長崎留学を果たしますが、それまでは自身の進むべき方向として従来の「儒学」を極めるか、新たに英語を学び近代の教育に進むべきかの岐路で大いに迷った時期がありました。1893 年 10 月（明治 26 年）に清国公使館参事官として外務大臣・陸奥宗光の命により着任します。外交官としての始まりです。小村・38 歳でした。北京到着後は１１月に駐清臨時代理公使になります。その後日本は、日清戦争（1894 年～ 1895 年）を、朝鮮半島（李氏朝鮮）において清国と交えます。いわゆる日清戦争の勃発です。その日清戦争の発端となったのは、朝鮮半島内で起こった東学党の反乱を起因としています。結果として、清国に着任してからその僅か９か月後には北京公使館を退出、帰国しています。小村は、在任中に短期間で清国の実態を把握し、情報の蓄積を図っています。その上で外務大臣陸奥宗光の外交方針に従って行動しています。李氏朝鮮（1392 年～ 1896 年）は、清国の冊封体制下で長期にわたり鎖国政策をとりました。清国の冊封体制のなかで独立した国家としての運営を行ってはいましたが、過酷な徴税により国民の生活は劣悪を極めていました。そのような朝鮮の現状を脱却させ、真の独立国家とせしめる、として支援します。（イギリスの旅行家イザベラ・バードの東方見聞録・参照）（注）・ウイキペディアの論説を参照

日清戦争は、小村にとって外交官として初めての経験でした。開戦の直接の端緒は”東学党”の乱を契機としていますが、その後に清国との主導権争いが続きます。小村の開戦前における情報の収集が的確なもので、日朝修好条規、天津条約を後ろ盾として、仮に最悪の場合、本格的開戦に至っても、清国の国力を見極めての結論でありました。朝鮮を真の独立国として支援することが、ロシアの南下政策を封じることに繋がるとの結論でした。ひいては、日本国の安全に直結するとの考えでありました。ところで、日清戦争に至る 20 数年前の 1871 年（明治 4 年）9 月に、清国の対日融和外交を主張した李鴻章の尽力により、日清修好条規が締結されました。国交を樹立する対等な条約とされています。その対等な条規の内容は、①相互に外交使節を常駐させること、②領事裁判権を相互に確認すること、③領土に関しては「両国に属したる邦土もおのおの礼をもって相まち、いささかも侵越することなく、永久安全を得せしむべし」とあります。しかしながら 3 年後には日本側の台湾出兵で破ってしまいます。この条規は、少なくとも清国との対等な対場での”友好的”平等条約でした。本来、外交官は、戦争という軍事的解決の方法は回避するということが求められる訳です。いまだ近代的民主主義の確立していない時代の、やむを得ない対処方法であったと思います。それは、ロシアにおける南下政策である東アジアの植民地化を恐れたが故の対応と考えられます。小村さんの外交は、対応国を自らが徹底して研究し尽くすことにあります。その後で「誠の外交」を行います。したがって、嘘を吐かない真実の交渉対応で、相手に安心感を与えたと考えます。交渉の相手国の事についての正しい理解は、真実に基づくものであるので交渉に理解を生みます。そのことを基本として、小村さんは掛け値なしに交渉されたと考えます。その後は、日清戦争終了後 10 年を経て、1904年 2 月～1905年 9 月の間、ロシアとの日露戦争となります。（日露戦争の経緯についてはご承知のとおりで、省略します。）アメリカでのポーツマス講和会議の交渉の際も、ロシアの全権大使ウイッテとの交渉対応にあたっても、米国大統領・記者・米国民に対する世論操作も行うことなく、ただ真っ直ぐに交渉にあたったと言われています。嘘を吐かずに交渉相手の信頼を得ることが大事である、と

次頁へつづく ▶▶▶

◀◀◀前頁より

していたが、交渉が行き詰まり決裂も万事やむを得ずとして、双方とも帰国の準備をしたとの事である。が、事実であろうか。大ボラは無かったのであろうか（笑い）。それとも、次席全権の高平小五郎さんとの二人の堅物コンビで、ロシヤ側の諦めを促し、妥協させたのであろうか。ともあれ、小村の外交交渉とその成果は、華々しい。日英同盟、ポーツマス講和条約、不平等条約の改正等々。なぜ、これ程までに成果を上げることが出来たのでしょうか。「どの国とも距離を置いていたことが大きい」と言われています。小村はイデオロギーにこだわらず、どの国とも同じように付き合った。また押しが強いという面も、、。（関西外語大学准教授・片山慶隆氏・参照）

普遍的に何れの国とも等距離に接し、偏った国に肩入れをしない等距離外交は安心を生みます。それに加えて、外交交渉の場では、何れの国に対しても「誠の外交」を貫いたことに尽きると考えます。如何でしょうか、、。幼いころからの儒学に学んだ精神は、性急すぎる欧化政策のブレーキ役にもなりました。東洋の精神の良さと、合理的西欧の良さも理解し、ただひたすらに、己の行動に一言の弁解もせず、日本の国益を死の直前まで最優先に、短い生涯を終えられました。

4. 小村の私生活

小村の生涯を通しての生活は、極貧生活であったと言われています。そもそもは、父親の事業の失敗に起因する借財の肩代わりです。小村の苦境を彼の友人たちが減債に協力してくれました。また、多くの人々が親身になり助けてくれました。そのようななかにあっても、家族の生活のみならず、小村は、自身を世に送り出してくれた小倉処平の２人の子供に養育費を援助をしています。儒教の教えが身についていたからでしょう。生涯にわたり金銭には恵まれず、財を成すことはありませんでした。

新刊紹介

明治日本はアメリカから何を学んだのか
著者　小川原　正道

著者の小川原正道氏は慶應義塾大学法学部教授。

1976 年生まれ、長野県出身。著書は近現代史が多いです。若いですね。小村さんの事も、本書には出てきます。ハーバードの時代です。又、金子堅太郎がセオドア・ルーズベルトとは学生時代には全く交流がなかった事も書かれて、その出会いのきっかけを作った人物も記されています。此処までは私の知るところですが、「小村寿太郎の死」の項目では、OB の会報誌なのか「ハーバード･グラデユエイツ･マガジン」第 20 号に「小村侯爵の生涯について以下の事実を記載することが出来た」とありました。小村さんの死はハーバードでも取り上げられていたのですね。その会報誌、小村記念館にレプリカでも置いて欲しいものですね。観てみたいです。ご興味のある方はご購入して読んでお楽しみ下さいませ。

小村寿太郎侯東京奉賛会
副会長　郡司　聡視

お知らせ

○ 中西　輝政 先生の講演会開催について
コロナ渦で延期になっていましたが、終息した時点での開催を予定しております。

○ ビッグニュースです。
ミハイル・ガルーシン　ロシア連邦駐日大使の訪宮について
ポーツマス条約（１９０５年）締結に至る小村寿太郎とウィッテの両全権委員の縁により、同大使の熱烈なご希望で今春以降、日南市訪問が実現しそうです。

○ ９月５日（月）ベル・リンギング

○ 青山墓地清掃・参拝日程
12 時　いとうや（TEL03-3401-2475）集合
３月２７日（日）・５月２９日（日）・７月３１日（日）
９月２５日（日）・１１月２６日（土）「墓前祭」

110 回忌墓前祭報告

◀晴天の青山墓地にて

11 月 26 日（金）12 時、いとうや集合にて小村侯の 110 回忌の墓前祭を参加者 9 名にて静かに執り行いました。コロナ渦の為、お声かけもままならない中、例年参加されている方々と清掃に見えている方々に呼びかけしての墓前祭となりました。直前の 21 日の日曜日に参加者 8 名にて清掃を済ませておりましたので、当日は各自玉串奉納を行い、慎ましい墓前祭となりました。

写真撮影　金丸　博司

小村寿太郎侯東京奉賛会
〒130-0021　東京都墨田区緑３-９-３　電話　03-3846-9030　FAX　03-6659-3084
E-mail:kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp　振込先：ゆうちょ銀行　店番 008 普通預金口座 1191854　名義　小村寿太郎侯東京奉賛会
発行：小村寿太郎侯東京奉賛会　発行日：令和４年１月　発行責任者：金丸博司